島根の歴史を物語る文化財

文化財

建造物

神魂神社本殿

絵画・工芸・彫刻など

木造四天王・広目天（出雲市大寺薬師）

板絵著色神像（松江市八重垣神社）

古文書・書跡など

『出雲国風土記』（日御碕本・岸崎氏本）

民俗文化財

生活の中に残る行事や習俗、習慣、使われてきた道具（民具）や生業のあり方などにも、すべて歴史的な背景があり、昔の暮らしぶりを今に伝えてくれます。

斐川町の民具

奥飯石神職神楽

町並み・景観 地名など

いま残されている町並みや町割り、景観も、地域の歴史や伝統を受け継いでいます。

大田市大森銀山地区

先人の足跡を刻んだ文化財

ひと口に文化財といっても、さまざまなものがあります。主なものをあげると、寺社や城などに代表される「建造物」、「彫刻」、「絵画」、「工芸品」などの言わば美術品、当時のでき事などを文字で書き記した「古文書」や「書跡」、人びとの暮らしの中に残る「民俗文化財」、歴史的背景の中で形作られた「町並み」や「景観」、そして土地に埋もれた「埋蔵文化財」などがあります。

これらの文化財は、各分野の専門家によって研究され、そこから多くの貴重な情報が得られていきます。それらの成果をさらに総合化していくことにより、歴史は明らかにされていくのです。

「見過ごされがちな文化財」

ところでこうした文化財には、文化財としてわかりやすいものと、そうでないものがあります。建造物や美術品は、見る者に直接的にそのすばらしさを訴えかけてきます。古文書類も、直接当時のことを書き記したもので、歴史を調べるうえで重要であることはよくわかります。通常、文化財と言えば、これらを思い浮かべる人が多いと思います。言うなれば、わかりやすくポピュラーな文化財と言えるでしょう。

一方、文化財として見過ごされがちなものが民俗文化財や、町並み・景観、埋蔵文化財などです。たとえば私たちの祖父母が使っていたような生活用具や、地元で昔から行われている行事は民俗文化財ですが、私たちは通常、その伝統や歴史的意義を考えたりはしません。町並みや景観、地名なども、そこに住む人たちにとっては当り前の風景、あるいは生活そのものであり、それらが昔の歴史を今に伝える貴重なものとは一般的には意識されていないでしょう。

そしてもう一つ、埋蔵文化財は、その名のとおり、ふつうは土地に埋もれていて見ることはできませんし、発掘されても、実際に目にする人はほんの少数です。専門家かよほど興味のある人以外にとっては、何の変哲もない山や田畑にしか見えません。

人びとの息吹を伝える文化財の調査

さて建造物や美術品・古文書などの多くは、言わば残されるべくして現代まで伝えられたものです。多くは宗教的、あるいは政治的に貴重な役割を果たす「特別なもの」として今日まで伝えられてきました。

「特別なもの」は、しばしばそれ一つだけでも歴史を動かすような重大な事実を語ってくれます。その反面、これらの研究だけでは、当時の社会を支えていた一般の人たちの存在が置き去りにされがちです。

民俗資料、埋蔵文化財、町並みなどの文化財は、これ一つで多くを語ることはできません。しかし民俗資料や町並みは、それ自体がまさしく当時の生活を物語っていますし、埋蔵文化財は昔の人たちの行動の痕跡そのものです。さほど雄弁ではありませんが、資料が積み重なれば重なるほど、当時の人びとの歴史が明らかになってきます。

この『いにしえの島根ガイドブック』も、近年の埋蔵文化財などの調査の進展があって、はじめてできたといっても過言ではないでしょう。

埋蔵文化財などが背負う宿命

こうした「見過ごされがちな文化財」は、近年、その多くが私たちのまわりから姿を消しつつあります。生活様式の大きな変化は、伝統行事の存在意義をいやおうなく薄くし、日常道具がどんどん電化され、便利になるにつれて、旧来の道具は姿を消していきます。車社会に代表される社会生活の変化に合わせて、昔からの町並みや景観も失われていきます。そしてその土地に古くから眠る埋蔵文化財も、道路の整備や住宅の建築など、現代の生活に必要なさまざまな開発に伴って、眠りから目覚めさせられていきます。

しかし、急激に社会が変化しはじめた高度成長期以来、社会生活の変化や開発に伴って失われがちな文化財を残そうという動きが出てくるようになりました。とくに埋蔵文化財の調査は、大規模な開発に先立って、必ず調査が行われ、記録として残されるようになりました。その結果、先人が歩んできた歴史について、膨大なデータが積み重ねられ、さまざまなことがわかるようになりました。また、とくに重要なものは、開発計画を変更して、後世に残されることもあります。本巻では、この埋蔵文化財を中心に、しだいに姿を消しながらも私たちに残していったものについて、お話ししたいと思います。

埋蔵文化財

埋蔵文化財とは、「土地に埋もれた文化財」のことで、大きく「遺構」と「遺物」、そして「自然資料」に分けることができます。

埋蔵文化財

自然資料

花粉

土壌

火山灰

人間の活動とは直接かかわりはないが、当時の様子を復元するのに使われる資料。近年自然化学的分析を行う例が増え、歴史復元に重要なデータを提供している。発掘調査に伴って得られることが多い。

遺物

自然遺物

自然の物だが、人の活動を経たもの。たとえば食べかすの貝殺や獣骨など。

人工遺物

人によって形作られたり手を加えられた物。たとえば土器、石器など。

遺構

土地に刻まれた人間の活動の痕跡。たとえば古墳、竪穴住居跡など。

なぜ埋蔵文化財は調査されるのか

埋蔵文化財は、地域の歴史を知るうえで貴重な資料です。しかし土地に埋もれているために、発掘調査をしなければ、その全容を知ることはできません。道路や住宅建設など、現在多くの開発が行われていますが、そこには埋蔵文化財が埋もれていることが少なくありません。放っておくと、こうした埋蔵文化財は、私たちに何も伝えないまま開発と同時に失われてしまいます。そこで、この埋もれた資料を記録として残すため、開発に先立って調査が行われるのです。

1995年に島根県で刊行された発掘調査報告書

いま地域の歴史を語るとき、埋蔵文化財が重要な役割を担っています。一つには、人間の歴史の中で、文字資料がなく考古資料しか残らない時代が非常に長いからです。奈良時代以前の歴史は、埋蔵文化財の調査にその大部分が負うことになります。

もう一つの理由は、他の資料に比べてはるかに豊富なデータがあることです。多大なデータに支えられて地域史は豊かに復元され、また今後増えていくデータによってさらに補強、あるいは修正されていきます。調査された遺跡の多くは開発に伴って姿を消していきますが、その代わり多くのものを私たちに残しているのです。